

この本の使い方

◎ 付属 CD には、ピアノ、ベース、ドラムによる伴奏で、本書掲載の全コード進行パターンを見開き 2 頁毎に 1 トラック、計 60 トラック収録。

伴奏は全て【4分の4拍子、♩ = 120、Key : C or Cm】。

※トニックの I or Im (C or Cm) 部分は、2 小節の演奏。

EX. [3 コード進行] : IIm7 - V7 - I - I × 6 (パターン)

(4 小節) IIm7 - V7(♭5) - Im - Im × 6

[5 コード進行] : IIm7 - VI7 - IIm7 - V7 - I - I × 3 (パターン)

(6 小節) IIm7(♭5) - VI7 - IIm7 - V7 - I - I × 3 etc....

コードをしっかりと押えながら、進行パターンに沿って思いつく自由なフレーズで練習する。慣れてきたら、任意でテンポを変えたり、移調して練習する。

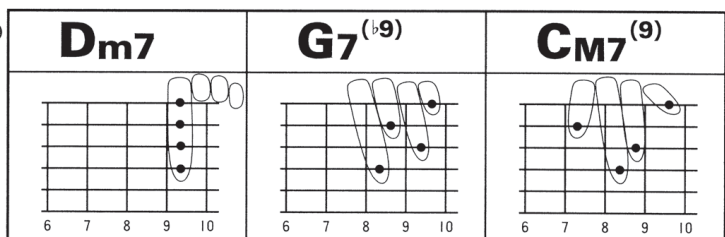
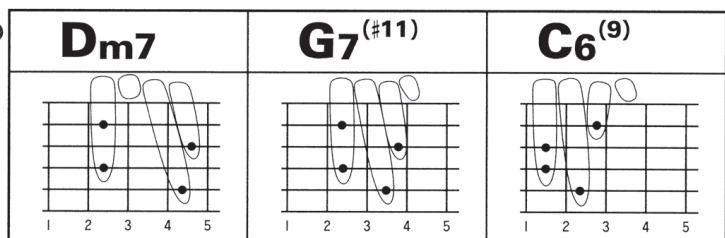
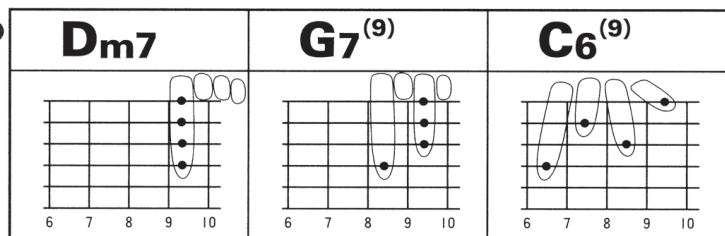
◎ CD トラック番号

1

コード進行のパターン。ちなみにこのパターンがいわゆる「ツーファイブ」といわれるもの。

IIm7 → V7 → I

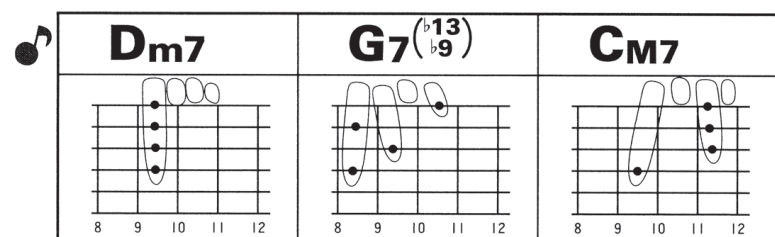
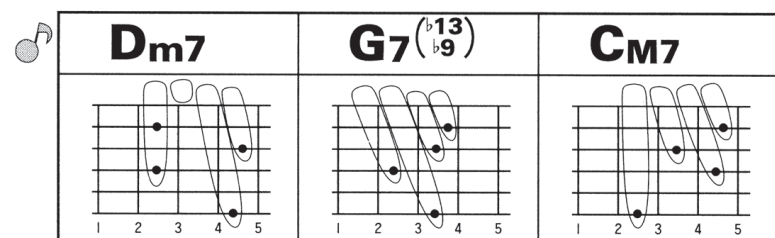
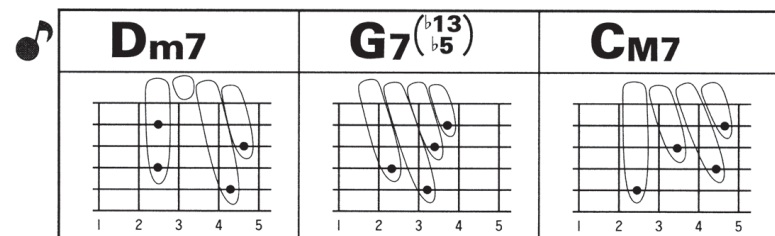
(R) (5) (9)



解説 2段目のG7(#11)というコードは、少しトンガったコードですが、ギターならではのカッコいい響きがあります。特にソロやミディアム以上のテンポで使うと効果的です。

IIm7 → V7 → I

(R) (♭13) (3)



解説 1・2段目のDm7のフォームは1弦のミュートが少しおもしろいので、1弦はストロークしないが、フィンガーピッキングにするといいでしょう。私の場合5弦はピック、4弦は中指、3弦は薬指、2弦は小指というパターンを使います。

トップ・ノートは○で書かれている。他の構成音は●で記されている。

色の濃い順番に、使用されることが多いパターン。

コード構成音のうち、なんの音かトップ・ノートになっているかを表示している。

押え方。押えていない弦は全部「ミュート」する。

そのページのコード、コード進行などについての解説。